

研究室のテーマを基に、第1表のように、多種多様なもの
が選ばれています。先ほどお話ししました観測結果の解析
というのは、ここでの研究のごく一部であることがわか
ると思います。現在、研究室としては、1つは、メソ現
象、もう1つは、気候に関係して、これまでの経験を生

かした対流と関係した研究を考えていますが、これ以外
にも、どんなものでもやっていこうというのが方針で
す。

A: いろいろとありがとうございました。

(p. 18 からつづく)

その他、副業として、R. Hideと一緒に、dynamo theory
の paper も書いていました。たまには、mathematics の
論文を書くことは、精神衛生上非常に良いことです。

その後、ECMWF に移る話が起きました。そこで、
ECMWF は、世界的にも有名であり丁度、UKMO から
休みがもらえたので移りました。

問：現在の興味は何ですか？

— 現在は、predictability and diagnosis section に居
ますので、その方面の仕事に興味もっています。例え
ば、Monte Carlo 法による予報誤差の推定にしても、
どの様に、初期状態を Perturb するかは大きな問題で
す。slow mode にも、fast mode にも、適当に perturb
ation を加えなければなりません。circulation pattern
と forecast skill の関係も研究しています。例えば、PNA
が正の時は、ECMWF の予報は成績が良く、PNA が負
の時は、予報の成績が悪いことが知られています。この
事は、flow regime の stability の問題と直接に関連して
います。この様に、現業的な問題を追求しています。

問：若い人達に云いたい事は？

— あきらめない事です。Ph. D の1年目と2年目には、
考えがまとまらなくて3年になってある時、一週間
位で、今までの事が全てまとまって来ました。それと、
年をとってからでは、数学を master するのが非常に困
難です。理論的な事を多少なりともやりたい人は、若い
時に、simple model なり、解析解を求める仕事をした
方が良いと思います。若い時には、理論的な事をやるの
が良い経験になると思います。

問：日本についての印象は？

— 非常に感心しています。とくに、最近の5年間で、
非常に進歩したと思います。特に、JMSJ は、今や、世
界の中で最も重要な journal になったと思っています。
今後共、日本と一層の協力関係を期待しています。

ECMWF 滞在中は、熱心に面倒をみてくれた Plamer
でした。若干35歳で、良く各国の人からなる課をまとめ
ていると感心しました。それに、dynamo theory の論文
を書いているのにはびっくりしました。とに角、彼らの
興味と background の広いことには感心するのみです。

(住 明正)

理工学における同位元素研究発表論文募集

開催月日：1989年7月3日(月)～7月5日(水)

開催場所：国立教育会館(東京・霞が関)

発表論文の内容：各研究分野において、その専門的効果
を得るに至った放射性および安定な同位元素ならびに
放射線の利用の基礎となる論文とする(なお発表論文
には少なくとも一部に未発表部分が含まれているこ
と)。

発表は口頭発表またはポスター発表とする。

発表申込締切：1989年2月28日(火)

申込方法：所定の申込書に限る

申込先および申込書請求先：

〒113 文京区駒込 2-28-45 日本アイソトープ協会内
理工学における同位元素研究発表会運営委員会
TEL. 03-946-7111 (内線 261)